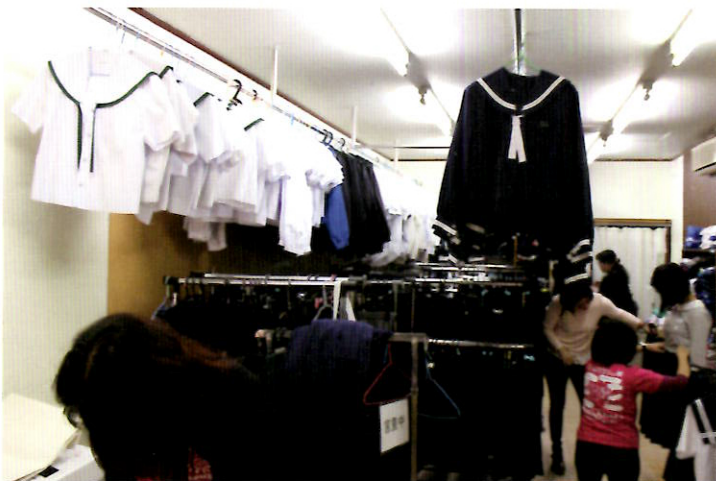


●子ども応援団「笑びん」

森田好美団長

糸数綾乃副団長



〈利用者の明るい声響く〉

「学生服のリユースを通して沖縄の子どもたちが、元気に成長していく姿を私たちは応援しています」と、沖縄市中央を拠点に活動している。3月は卒業式、4月は入学式。この時期、中・高校の制服一般をそろえるのに5万円以上かかるといふ。一方、ご用済みとなった制服は行き場を失い

タンスへ。

「先日は男子用。今日は女子用ありがとう。助かります」。『ピッタシあうの』がありました。うれしい。土曜日午前の開店中は衣料を提供する母親連れや寸法をはかる友人同士でにぎわう。お互いに「ありがとう」の声をかけ合う。ここでは500円から千円の格安で手に入る。

シングルマザーの森田さんは娘2人の子育てに悩んだ時もあった。母親同士でおしゃべりしながら相談できる会を立ち上げたが、みんないそがしくうまく運ばなかった。娘たちが大きくなり、何か社会に役立つ事がないか考えた。以前、娘が制服の提供を受け助かったのを思い出し、糸数さんと相談し、「笑びん」を設立。

当初、学校にも呼びかけたが反応は少なかつた。中学のPTA連合会の副会長の時、沖縄市の小中学校に協力願いを出し、チラシなどでPRした結果、徐々に知られるように。

自身も仕事があり提供の受け取りに行く時間がない。やがて市社協市民活動交流センターの一時預かり協力を得た。転入生らの要望もあり、活動は春に限らず年間通して行っている。

入学時支出金を幾分か節約し、子育て世代を少しでも手助けしたいとの思いから進めた活動だが、若い人たちに「使える物は使う。無駄はしない」

との考え方が芽生える傾向が出ていくという。友人との会話で「新品ではなくていい」「親に負担はあまりかけたくない」との声も聞こえる。母親はこうした子ども達の対応に成長の証を感じるという。

〈ワークショップも開催〉

森田・糸数コンビの前向き志向は制服リユース活動だけにはとどまらない。ワークショップの開催も多種実施してきたし、3月からの新しい企画も練っている。

過去のワークショップでは「島ぞうりアート」「親子筆文字体験」「親子

キャンプ」「声で遊ぼう・ラジオCM作り」「親子バルーンアート体験」などで、モノ作りをしながら親子の絆を深めるとの願いが込められている。特に親子キャンプは家を離れ、自然豊かな公園で手作りピザやパンを焼き、家族と集団が仲良く過ごす。心の豊かさを感じるひとときでもある。今年の企画として3月はFMコザで「親子で笑びん」（土曜2時）募集中。4月には語学レッスンが始まる。英語、韓国語、中国語を毎週土曜日に沖縄市中央の笑びん事務所です。

森田・糸数のほか、7人の仲間がいるが、多くのボランティアを求めている。

子ども応援団「笑びん」は
制服のリユースしてます★

制服がほしい!

まだ使える!

出費が大変だ~!

誰かに役立てたい!

制服の寄付できるよ!

もったいない!

どうしよう。

安くしてほしい!

あなたの想いがリユースで繋がります。

制服寄付したい方、制服ほしい方→笑びんまで。
お問い合わせ ☎090-6860-3755 (森田) Mail :warabin2015@gmil.com